



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Education for Sustainable Development 2014
World Conference, Aichi-Nagoya (Japan), 10-12 November
Stakeholder Meetings, Okayama (Japan), 4-8 November

持続可能な開発のための教育(ESD) に関するユネスコ世界会議

014年11月10日-12日
愛知県名古屋市



DRAFT PROGRAMME



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

- Education for Sustainable Development 2014
- World Conference, Aichi-Nagoya (Japan), 10-12 November
- Stakeholder Meetings, Okayama (Japan), 4-8 November

持続可能な開発のための教育(ESD) に関するユネスコ世界会議

2014年11月10日-12日
愛知県名古屋市



イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長からのメッセージ

持続可能な社会を構築するために必要な価値観、スキル、知識は教育によって培われていくものです。この前提の下、ユネスコは「国連持続可能な開発のための教育の10年(2005-2014年)」を主導してまいりました。

テクノロジー、政策、経済的なインセンティブだけでは、持続可能な開発を達成することはできません。私たちは、個人としても社会全体としても、ものの考え方や行動様式を変えていく必要があります。それこそが「持続可能な開発のための教育(ESD)」が目指すところです。

「持続可能な開発のための教育」には状況を変える力がある—この認識は、「国連ESDの10年」の取り組みを通じて徐々に高まってきています。2012年に開催された「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」において、各国は「国連ESDの10年」の後もESDを推進していくことで合意しました。現在、「持続可能な開発目標に関するオープン・ワーキング・グループ」は、持続可能性の基盤強化に不可欠であるESDを、ポスト2015の教育目標のひとつとして掲げるよう提案しています。

今回のユネスコ世界会議は、この取り組みをさらに進めるものです。「国連ESDの10年」に続くユネスコの公式プログラムとして、「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム」が今会議で発表されます。この10年間で強固な基盤を築いてきたいま、私たち全員に求められているのは、さらに展開を拡大するためのグローバル・アクション・プログラムに全力で臨むことです。

「世界会議あいち・なごや」の共催者となってくださった日本国政府に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

ユネスコを代表して、今回の世界会議がパートナーシップ強化に大きく貢献し、「持続可能な開発のための教育」がその潜在性を十二分に発揮して、持続可能な将来、そして現在を形作っていただけるよう願っております。

下村博文 文部科学大臣からのメッセージ

2002年に開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグ・サミット)において、2005年から始まる10年を「国連ESDの10年」とすることを日本が提唱し、同年の第57回国連総会において決議されました。

国連ESDの10年の最終年に、我が国において、ユネスコと「ESDに関するユネスコ世界会議」を共催することは、国連ESDの10年の提唱国として大変光栄なことです。出席者ひとりひとりの来日を心から歓迎するとともに、御滞在中、様々な機会に、日本文化に触れていただくことを期待します。

日本では、これまで、ユネスコスクールを推進拠点として学校教育へのESDの浸透を図ってきたところです。その結果、この10年間で、学校、NGO、民間企業等、地域が一体となってESDの取組が活発に進められるようになりました。

教育は、個人及び社会の発展の礎となる未来に向けた営みです。持続可能な開発のための教育(ESD)は、持続可能な社会の構築という目的を与え、具体的な活動の展開に明確な方向付けをするものです。ESDの取組を通じて、持続可能な開発に関する価値観、体系的な思考力等が育まれることが期待されています。

本会議は、これまでの10年間を総括し、今後のESDの推進について議論する非常に重要な会議です。ユネスコ加盟国、NGO、専門家、民間企業、ユース、国連機関から多くの出席を得て、多彩な視点から議論されることを期待します。本会議での議論が、今後のESDの推進を加速させ、これからの世界の教育の在り方に一石を投じるものとなれば幸いです。



暫定アジェンダ

2014年11月9日(日)

12.00 - 16.00	会議登録受付
名古屋国際 会議場	
19.00 - 21.00	日本政府主催歓迎レセプション
ウェスティン ナゴヤキャッスル	当会場での会議登録も可能(受付時間:17.30-20.30)

2014年11月10日(月)

参加される方は午前9時までに着席をお願いします。

09.15 - 12.00	開会
センチュリー ホール	文化プレリュード: 狂言 野村萬斎(日本ユネスコ国内委員)「三番叟(さんばそう)」
09.15 - 10.25	開会挨拶: <ul style="list-style-type: none">■ イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長■ 皇太子殿下■ 下村博文 文部科学大臣■ 大村秀章 愛知県知事■ 潘基文 国連事務総長(ビデオ・メッセージ)■ アヒム・シュタイナー 国連環境計画(UNEP)事務局長 兼国連副事務総長(ビデオ・メッセージ) 基調演説: <ul style="list-style-type: none">■ ララ・ハスナ モロッコ王女 モハメッド6世環境保護 基金代表
10.25 - 11.20	国連ESDの10年を振り返って
	国連ESDの10年に関する最終レポートの発表: <ul style="list-style-type: none">■ チエン・タン ユネスコ教育担当事務局長補 パネルディスカッション <ul style="list-style-type: none">■ 「国連ESDの10年の成果と課題」 パネリスト: <ul style="list-style-type: none">■ イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長■ 教育大臣(未定)■ スーザン・ホブグッド エデュケーション・インターナショナル会長■ ユース代表 文化インターлюд: ヴァイオリン演奏 川井郁子(日本ユネスコ国内委員)「ジュビター」「ホワイト・レジェンド」

11.20 - 12.00	<p>国連ESDの10年後に向けて</p> <p>閣僚級からのステートメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ マディハ・アル・シバニ オマーン教育大臣 ■ ジェイコブ・T・カイメニイ ケニア教育大臣 ■ ヌルル・イスラム・ナヒド バングラデシュ教育大臣 ■ マゲレ・マウリウ・マゲレ サモア教育・文化・スポーツ大臣 <p>会議アジェンダの概要:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スー・ヒャン・チョイ ユネスコ教育局 指導・学習・教育内容部長 <p>開会全体会合の司会: ステファン・コール アルジャジーラ・シニアプレゼンター</p>
12.00 - 14.00	<p>昼食</p>
12.15 - 13.45	<p>サイドイベント</p> <p>参加者にはランチを用意しています。</p>
14.00 - 16.00	<p>ハイレベル円卓会議</p> <p>白鳥ホール</p> <p>共同議長: イリナ・ボコバ ユネスコ事務局長、下村博文 文部科学大臣</p> <p>冒頭ステートメント: 未定</p> <p>ディベート: 「持続可能な開発のための教育(ESD)を高める政策支援とは」</p> <p>司会: ステファン・コール アルジャジーラ・シニアプレゼンター</p> <p>センチュリーホールで中継の予定。</p>
16.00 - 16.30	<p>コーヒー・ブレイク</p> <p>記者会見</p>



16.30 - 18.45

ワークショップ クラスター I:
「行動の10年」を称えて

このワークショップ・クラスターでは、「国連ESDの10年」での成功例や他への起爆剤となったイニシアティブを紹介します。

Room 224

1. ESDの概念: これまでの道のり、今後の展望

コーディネーター: ローズ大学 (南アフリカ)、国立教育政策研究所 (日本)

Rooms 222-223

2. 我々の望む未来に向けて: ESDと政策

コーディネーター: 南アフリカ野生生物・環境協会 (アフリカ南部開発コミュニティによる地域環境教育プログラム-SADC-REEPの代表として)、ベトナム教育訓練省

Room 438

3. 未来を共有する質の高い教育と学習: グローバル開発目標においてESDが果たす貢献とは

コーディネーター: スウェーデン持続可能な開発教育のための国際センター、世界教育キャンペーン

Room 234

4. セクターと地域を超えた学習: 現地イニシアティブとマルチステークホルダー・ネットワークを通じて拡大し主流となるESD

コーディネーター: 国連大学サステナビリティ研究所、アラブ首長国連邦アブダビ環境庁

International
Conference
Room

5. 飛躍的な移行を可能にする倫理に根ざした教育イノベーション

コーディネーター: ユネスコチェア ワーゲンゲン大学 (オランダ)、グーテンベルグ大学 (スウェーデン) 社会的学習と持続可能な開発、国連平和大学 持続可能な開発のための教育 地球憲章センター (コスタリカ)

Room 232

6. 官民両セクター間の効果的なESDパートナーシップの原則

コーディネーター: ブビヤン銀行 (クウェート)、アマナ・キー・グループ (ブラジル)

Room 221

7. モニタリングや評価は、どのようにESDに変化をもたらすのか

コーディネーター: DESDモニタリング・評価専門家グループ、国際連合欧州経済委員会、地球環境戦略研究機関 (日本)

19.00 - 21.00

アトリウム

ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会主催歓迎レセプション

2014年11月11日(火)

09.00 - 10.30

白鳥ホール

全体会合II 2030年のESDの姿とは？

パネルディスカッション

- ナーナ・ジェイン・オボク＝アジマン ガーナ教育大臣
- キーショウ・シグ 教育を受ける権利に関する特別報告者
- レスリー・ジョーンズ 国際環境教育基金副会長(本部:デンマーク)
- ホワン・ディアス・テ・ラトレ メキシコ国立教育労働組合会長
- ユネスコスクール(ASPnet)の生徒

司会: アベジ・オグブイグエ ANPEZ 環境と開発センター(ナイジェリア)

10.00 - 11.00

コーヒー・ブレイク

11.00 - 13.15

ワークショップ・クラスター II: 万人にとってよりよい未来を築くための教育の新たな方向性

このワークショップ・クラスターでは、ESDを教育の質に不可欠な要素と位置づけ、話し合いを進めます。

Room 221

1. **幼児教育・発達支援のためのESDイニシアティブの策定**
コーディネーター: 世界幼児教育機関、アフリカ教育開発協会

Room 224

2. **子供たちが変化をもたらす: 初等・中等教育**
コーディネーター: チリ教育省、スワジランド環境庁

International
Conference
Room

3. **高等教育と研究を通じて世界を住みやすい場所に変える**
コーディネーター: 国際大学協会、リオ+20高等教育持続可能性イニシアティブ/国連環境計画

Room 231

4. **環境に配慮した技術職業教育訓練: 持続可能な開発の潜在性を引き出す**
コーディネーター: ユネスコ国際職業技術教育訓練センター/TVET機関間作業グループ、モーリシャス訓練・開発機関

Rooms 222-223

5. **教員教育: 刻々と変化する世界に貢献するESD**
コーディネーター: 国際理解のための教育アジア・太平洋センター、エデュケーション・インターナショナル、教員教育機関国際ネットワーク

Room 438

6. **地域社会の取組み: 持続可能な開発のための生涯学習**
コーディネーター: ユネスコ生涯学習研究所、岡山市

Room 233

7. **情報通信技術(ICT): ESDに改革をもたらすアプローチ**
コーディネーター: 持続可能な開発のためのヤング・マスター・プログラム(スウェーデン)、ユネスコチェア「持続可能な開発のための教育: 訓練・研究」ボルドー第三(ミシェル・ド・モンテーニュ)大学(フランス)

Room 232

8. 世界遺産と芸術教育:文化的感性を育むESD

コーディネーター:芸術教育研究国際ネットワーク、ユネスコ世界遺産センター

Room 234

9. 21世紀の教育への実務的アプローチを検証:グローバルシティズンシップと環境教育学、持続可能な開発

コーディネーター:米国カリフォルニア大学パオロ・フレイル研究所、ブラジル パオロ・フレイル研究所、欧州評議会南北センター

13.15 – 15.15

昼食

13.30 – 15.00

サイドイベント

参加者にはランチを用意しています。

15.15 – 17.30

ワークショップ・クラスターIII:

Rooms will be indicated

持続可能な開発に向けた行動促進

このワークショップ・クラスターでは、持続可能な開発を左右するESDの具体的な課題について議論します。

Room 438

1. 水の教育とキャパシティビルディング:水の安全保障と持続可能な開発

コーディネーター:ユネスコ国際水文学計画、ユネスコチェア 水、女性、決定権 アルアハワイン大学(モロッコ)

Room 231B

2. ひとつの地球、ひとつの大洋:ESDと海洋知識

コーディネーター:政府間海洋学委員会、世界大洋ネットワーク

Room 211A

3. 再生可能エネルギー:自給自足とESD

コーディネーター:電気工学・電子工学技術学会、エミレーツ環境グループ

Room 233

4. 学校と保健:ESDのマイクロ・エコロジー

コーディネーター:世界保健機関(WHO)、FHI 360

Room 221

5. 公式、非公式教育:農業と食料安全保障における大小プロジェクトの実施

コーディネーター:ヘリオポリス大学セケム持続可能な開発部門(エジプト)、国連食糧農業機関(FAO)

Room 231

6. 生物多様性の政策・運用を促進する重大な手段としてのESD

コーディネーター:国際自然保護連合、国連生物多様性条約

International Conference Room

7. 気候変動に対応した低排出型社会の基盤を築くための教育

コーディネーター:ドミニカ共和国気候変動国家委員会、国連気候変動に関する教育・訓練・国民意識のための同盟(事務局:UNFCCC)

Room 232

8. 防災と持続可能な地域社会を構築するための教育

コーディネーター: 自然災害モニタリング警戒のためのブラジルセンター、ブラジル科学技術省、DRR知識教育のためのグローバルアライアンス(代表: 国連国際防災戦略 (UNISDR))

Rooms 222-223

9. 持続可能な消費と生産 (SCP)のための教育: ユースの強化と動員

コーディネーター: 国連環境計画、マクズミ財団(レバノン)

Room 224

10. 環境にやさしい経済: 2014年以降にESDが果たすべき役割

コーディネーター: アジア開発銀行、南アフリカ大学

Room 234

学習都市: 新しい都市アジェンダにおけるキャパシティビルディング

コーディネーター: 国連人間居住計画 (UN HABITAT)、メキシコ市環境省



2014年11月12日(水)

09.00 - 10.30

白鳥ホール

全体会合III:
教育は持続可能な開発のゲームチェンジャー?

パネルディスカッション:

- ローザ・オトゥンバエワ キルギスタン前大統領
- 高橋ひなこ 環境大臣政務官
- ハンス・ファン・ギンケル 元国連大学 ESDに関する地域の拠点(RCE)学長
- アラブ・ホバラ 国連環境計画 技術・産業・経済局 持続可能な消費と生産支局チーフ

司会: 未定

10.30 - 11.00

コーヒー・ブレイク

11.00 - 13.15

International
Conference
Room

Room 224

Room 234

Rooms 222-223

Room 232

Room 221

Room 438

ワークショップ・クラスターIV:
2014年以降のESDアジェンダの設定

このワークショップ・クラスターでは、ESDグローバルアクション・プログラム(GAP)の実施に伴う具体的な優先項目と課題を取り上げます。

1. 21世紀型能力を育み、評価し、促進する

コーディネーター:ユネスコチェア リューネブルク大学(ドイツ) 持続可能な開発のための高等教育(ドイツ)、メルボルン大学教育大学院、アジア・太平洋教育の質モニタリング・ネットワーク (NEQMAP)

2. 2015年以降のESD:政策から運用まで

コーディネーター:カナダ教育省委員会、カリブ共同体 (CARICOM)

3. ESDと持続可能な開発目標(SDGs)の達成

コーディネーター:インド環境教育センター、国連経済社会局

4. ESDにおける現地イニシアティブ:持続可能な将来に向けた行動推進

コーディネーター:ドイツユネスコ国内委員会、ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会、RCE中部

5. ESDに対する全機関的アプローチ

コーディネーター:環境教育基金(デンマーク)、環境保護のためのモハメド基金(モロッコ)

6. ESDを支援する人間関係

コーディネーター:新ビジョン教育プロジェクト/世界経済フォーラム、教育のためのグローバルパートナーシップ

7. GAPにおけるモニタリング・評価:規模、質、優先課題

コーディネーター:国際教育到達度評価学会、タリン大学政治・ガバナンス研究所(エストニア)

13.15 - 15.15	昼食
13.30 - 15.00	<p>サイドイベント</p> <p>参加者にはランチを用意しています。</p>
15.15 - 17.00	<p>閉会全体会合</p> <p>センチュリーホール</p> <p>共同議長： 丹羽秀樹 文部科学副大臣、 チエン・タン ユネスコ教育担当事務局長補</p>
15.15 - 15.45	<p>世界会議の結論</p> <p>全体報告者による発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ヘイラ ロツツ=シシットカ 南アフリカ ローズ大学 <p>あいちなごや宣言の発表と採択</p>
15.45 - 16.35	<p>ESDに関するグローバルアクション・プログラム(GAP)の発表</p> <p>GAP実施方針の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ チエン・タン ユネスコ教育担当事務局長補 ■ ステークホルダー5人からGAPコミットメントの発表
16.35 - 17.00	<p>閉会</p> <p>子供たちによるパフォーマンス</p> <p>閉会の辞</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 丹羽秀樹 文部科学副大臣 ■ チエン・タン ユネスコ教育担当事務局長補 <p>閉会全体会合の司会： スー・ヒャン・チョイ ユネスコ教育局 指導・学習・教育内容部長</p>
17.30 - 18.15	記者会見



展示

世界会議の期間中、アトリウムとイベント・ホールにおいて、ESD関係者とステークホルダーがプロジェクトを紹介し、アトリウムでは世界各地で成功を取めた25件のESDプロジェクトが紹介されます。イベントホールでは、各国政府、政府間機関、NGOを含むステークホルダーによる展示が行われるほか、「あいち・なごやおもてなし交流エリア」は、地域におけるESDイニシアチブ、伝統や文化などをはじめ、開催地の魅力を紹介します。

サイドイベント

サイドイベントは、ステークホルダーとパートナーが自らの取り組みを紹介し、ESDの具体的な問題について話し合い合う機会になります。

2014年11月10日(月)

12.15 - 13.45	サイドイベント
Room 234	1. 未来構築のための検証:価値基準に照らしたESD経験から得る教訓、地球憲章インターナショナル
Room 221	2. グローバルシティズンシップの若手リーダー、ドイツ国際協力公社(GIZ)、マハトマ・ガンディー平和と持続可能な開発のための教育機関(MGIEP)
Room 231B	3. 気候変動教育に一丸となって取り組む国連、国連気候変動に関する教育・訓練・国民意識のための同盟
Room 438	4. ESD実施を成功させる前提条件としてのパートナーシップ、中東欧REC
Room 231	5. ESDにおいてなぜジェンダーが重要であるか、お茶の水女子大学
Room 232	6. 成功するESDのための教育と災害リスク軽減のための教育、京都大学
Rooms 222-223	7. ESDを成功させる環境整備:アジア及びアフリカにおける学校ベースの経営(SBM)の実践、国際協力機構(JICA)
International Conference Room	8. 持続可能な開発(SD)のための教育とジェンダーの格差の是正-ポスト2015教育アジェンダに向けて、外務省、文部科学省

2014年11月11日(火)

13.30 - 15.00	サイドイベント
Room 231	1. 初等・中等教育におけるアフリカと日本の間のESD協力、南アフリカ ケープタウン大学(学校開発ユニット)
Room 232	2. 気候変動への対応を担う子供とユースの参加ー行動を促進する双方向的な学習メソッドの役割、プラン・インターナショナル
Room 221	3. より持続可能な消費・生産システムの開発と持続可能な生活習慣におけるマルチステークホルダーの学習イニシアティブの役割、オーストリア科学・研究・経済省、教育・女性省、農林・環境・水利省
Room 438	4. ハンドプリントー持続可能性への行動:経験の共有と新たなパートナーづくり、環境教育センター(インド)
Int. Conference Room	5. 国連持続可能な消費と生産に関する10年枠組み(10 YFP)持続可能なライフスタイルと教育プログラムの開始、国連環境計画(UNEP)
Room 224	6. 新たな時代のESDとグローバルシティズンシップ教育、ユネスコ・アジア太平洋国際理解教育センター(APCEIU)、ACCU
Room 234	7. 日本におけるESDの成果と今後、環境省
Rooms 222-223	8. ESDの促進のための市民社会の取組みー市民社会と民間企業のパートナーシップを重視したマルチステークホルダーアプローチ、ESD-J

2014年11月12日(水)

13.30 - 15.00	サイドイベント
Int. Conference Room	1. 世界のフランス語圏の高等教育機関におけるESD、フランコフォニー国際機関(OIF)
Room 232	2. アフリカにおけるESD(ESDA)、ザンビア大学
Room 234	3. グローバル・アクション・プログラムの促進:ESD地域拠点(RCE)の貢献、国連大学サステイナビリティ高等研究所(UNU-IAS)
Room 221	4. 地域行政におけるESDの実施ーグッドプラクティス、バスク政府(スペイン)
Room 438	5. 地域政策のフレームワークを通じたESDの実施、国連欧州経済委員会
Rooms 222-223	6. 持続可能な大学に向けて、国連環境計画(UNEP)
Room 231	7. ブルーエコノミーのためのグリーンスキル:革新、雇用可能性、生涯持続可能性に関するTVETアジェンダ、南太平洋(サウスパシフィック)大学(フィジー)、教育技術研究及び開発の国際協会
Room 224	8. 市民活動に支えられる持続可能な市、愛知県豊田市
Room 211A	9. ESD関連テレビ番組の上映:「釜石の奇跡」(日本)、明日に向かってダッシュ(エジプト)、「通学路は大自然」(スリランカ)、NHK「日本賞」



言語

全体会合とハイレベル円卓会議には、同時通訳(英語、フランス語、スペイン語、アラビア語、日本語)、加えて、中国語の同時通訳が開会全体会合とハイレベル円卓会議に入ります。

ワークショップには、同時通訳(英語、フランス語、日本語)が付きまます。

サイトイベントおよび展示には、英語もしくはフランス語が使われます。

役に立つ情報

会場開館時間

国際会議場の開館時間は以下の通りです:

月日	開館時間
11月10日	8.00-22.00
11月11日	8.00-18.30
11月12日	8.00-19.15

レセプション会場

11月9日:ウェスティンナゴヤキャッスル

〒451-8551 愛知県名古屋市区西區樋の口町3-19

電話: +81-52-521-2121

*名古屋市中心部の特定ホテルと会場間でシャトルバスのサービスを予定しています。

11月10日:名古屋国際会議場アトリウム

主要な電話番号:

警察: 110 (全国24時間無料)

消防(救急車も): 119 (全国24時間無料)

救急処置/医療ユニット(名古屋国際会議場のみ)内線: 7619

インターネット(WIFI 接続)

ネットワーク名: ESD (パスワードなし)

現地での受付

会議の会場に入るには、有効な会議バッジの提示が必要となります。会議バッジは、名古屋国際会議場及び歓迎レセプション会場に設けられた受付カウンターで発行します。

バッジの発行を受けるには、有効なパスポートまたは写真付きの身分証明書の提示が必要となります。登録受付は、2014年11月9日から、以下の時間帯に受け付けます。

月日	受付時間
11月9日	12.00-16.00
	17.30-20.30 (歓迎レセプションにて)
11月10日	08.00-18.00
11月11日	08.00-17.00
11月12日	08.00-15.00

11月10日午前の会議開始前は混雑が予想されるため、参加者は、11月9日に登録を済ませバッジの発行を受けておくことを強くお勧めします。

セキュリティの関係上、ミーティング会場やミーティング・ルームに入る際に、会議バッジは常に見えるようにしてください。会議バッジを紛失した場合は、ただちに受付カウンターに届出てください。

伝言

他の参加者への個人的な伝言や情報を、情報カウンターにある掲示板に貼ることができます。

エクスカーション

愛知県名古屋市内外の名所を訪ねるエクスカーションが、11月9日の午後、11日、12日の夕方と、11月13日の午前から夕方に用意されています。詳細は、ウェブサイトをご覧ください。<http://convention.jtbcom.co.jp/esd-excursion/>

会場

名古屋国際会議場

〒456-0036

愛知県名古屋市熱田区熱田西町1番1号

Tel: +81-52-683-7711

Fax: +81-52-683-7777

ウェブサイト: www.nagoya-congress-center.jp/english/index.html

UNESCO ESD 連絡先

esd@unesco.org

www.unesco.org/new/esd2014

ED/TLC/ESD/2014/ME/1